



WAMは福祉と医療の民間活動を応援します

令和3年4月9日
 独立行政法人福祉医療機構
 経営サポートセンター長 佐藤 肇
 経営サポートセンター
 リサーチグループリーダー 松本 庄平
 担当 深澤・内記 (電話) 03-3438-9932
 (FAX) 03-3438-0371

病院経営動向調査（2021年3月）の結果について

独立行政法人福祉医療機構では、今後の病院経営や医療政策の適切な運営に寄与するため、病院経営における現場の声・実感や定期的な経営動向の変化を調査する仕組みとして、2019年から病院経営動向調査を四半期毎（3月、6月、9月、12月）に実施しています。今回は2021年3月に実施した本調査の結果についてご報告します。詳細はホームページ(<https://www.wam.go.jp/hp/hp-survey/>)に掲載しております。

1. 調査の概要

- 対象：病院（374施設）を運営する法人276法人（うち、医療法人230法人）*法人調査対象は医療法人のみ
- 調査事項：病院および医療法人の収益・費用・利益、資金繰り、従事者数等に関する現在の状況と3ヶ月後の先行き予測、新型コロナウイルス感染症の影響
- 回答数：病院：278 医療法人：165 有効回答数：病院：278 医療法人：165
- 有効回答率：病院：74.3% 医療法人：71.7%
- 実施期間：2021年2月26日（金）～ 2021年3月24日（水）
- 実施方法：Web上で実施
- 集計方法：DI（景気変動を判断するための指標。各項目の第1選択肢の回答割合から第3選択肢の回答割合を差し引いて算出）に加工・集計して公表

2. 調査の結果

【病院の動向】

- ・ 医業収益のDIは、一般病院が△24、療養型病院が△12、精神科病院は△39となった。
- ・ 医業利益のDIは、一般病院が△35、療養型病院が△16、精神科病院は△47となった。
- ・ 資金繰りのDIは、一般病院が△14、療養型病院が7、精神科病院は△22となった。
- ・ 従業員数のDIは、一般病院が△28、療養型病院が△25、精神科病院は△29となった。
- ・ 病床利用率のDIは、一般病院が△22、療養型病院が6、精神科病院は△45となった。

（補足）

- 医業収益のDIは前回調査と比較して、一般病院および精神科病院で低下、療養型病院は上昇していた。3か月後の先行きは、一般病院および精神科病院で上昇、療養型病院は低下となっていた。
- 従業員数のDIは前回調査と比較して、いずれの病院類型でも低下していた。
- 経営上の課題について、前回に引き続き人件費の増加と職員確保難を挙げる声が多かった。

【医療法人の動向】

- ・ 事業収益のDIは前回調査より13%ポイント低下の△34、事業費用のDIは前回調査より7%ポイント低下の27、事業利益のDIは前回調査より5%ポイント低下の△44となった。資金繰りDIは△9、従業員数のDIは△33となった。

【新型コロナウイルス感染症の影響】

- ・ 医業収益の直近1月実績について、前年同月比で減収（1割以上減）となった病院の割合は、一般病院で43.2%、療養型病院で23.9%、精神科病院で42.9%となり、いずれも10月と比較すると拡大していた。
- ・ 2020年度（2020年4月～2021年3月）において、医業収益が前年同期比で減収（1割以上減）となった病院の割合は50.0%、事業収益が前年同期比で減収（1割以上減）となった医療法人の割合は56.4%の見込みとなった。
- ・ 新型コロナウイルス感染症患者の受入れ状況については、現在受け入れているまたは受け入れたことがある病院の割合は、一般病院で51.2%、療養型病院で16.4%、精神科病院で4.1%となった。
- ・ 新型コロナウイルス感染症患者受入れに係る調整主体については、病床確保および入院調整のどちらも都道府県の医療担当部局がもっとも多い。

以上